第１回富山県高付加価値旅行者向けホテル誘致検討委員会
議　事　概　要

１　日　時　令和５年７月７日（金）14：00～15：30

２　会　場　富山県民会館 706 会議室

３　参加者　検討委員会委員（西村幸夫委員長、麦野英順副委員長、清水久三子委員、能作千春委員、桧垣真理子委員、山川智嗣委員（オンライン）、山田拓委員、田中悟史アドバイザー）

４　次　第

・挨拶（蔵堀副知事）

・富山県における高付加価値な観光地域づくりに向けた取組み

・議　事

（１）高付加価値旅行者に対応した宿泊施設の誘致について

（２）県内におけるホテル立地の可能性等について

（３）宿泊施設誘致に対する支援体制について

・意見交換

５　議事概要

蔵堀副知事より挨拶後、事務局より「富山県における高付加価値な観光地域づくりに向けた取組み」について説明。その後、議事（１）～（３）について事務局より資料にそって説明し、各委員による意見交換を行った。

（各委員の主な発言）

【山川委員】

○ラグジュアリーホテル、５つ星ホテルを富山県に誘致することには賛成。私自身も富山にはホテルが足りていないと思う。

○Bed and Craft のお客さんは、「Bed and Craft に来たい」というお客さんであって、「富山に来たい」という中で、Bed and Craft を選んだという人はほとんどいない。富山は自然、文化、歴史など魅力的であるが、エリアとして、面的になっていない。皆さんは、じゃらんだとかを使って宿を検索すると思うが、ほとんどの方は観光地から選択して宿を選ぶので、そうなると井波が選ばれにくくなる。なので、エリアブランディングが重要。観光は裾野の広い総合産業であり、まちづくりも含めてやっていかないといけない。

○観光業の地位が何故上がらないのかを考えると、観光業は本当に一面的にしか見えていないからだと思う。例えば農業は、小麦を作っている方は小麦を作って 100 円で売って、製粉業者が仕入れて 200 円で売って、それをパン屋さんが買って 300 円で売るわけだが、観光業の、観光客は、パンを 300 円で買う部分しか見えてない。最初は農

業だし、真ん中は商業。農業、商業といったところも包括的に捉えていかないと、観光業の地位は上がらないだろうなと思う。観光庁が、2030 年に向けて 6,000 万人の訪日外国人観光客を目指すというなら、観光のデータのとり方も考えてはどうか。データの取り方も富山モデルのようなものを。

○女性の働き手を増やし、地位を上げていかないと。ホテルを誘致して、そこで働こうとする人達にどうやってアピールしていくかを考えると、もちろん補助金での支援も良いが、人材が大事で、富山県は 100 万人だが、東京や首都圏には 4,000 万人いる。富山に比べて 40 倍の規模があり、そういった中で、富山に戻ってきてもらうにはどうすべきか。県として人材、教育、まちづくりを広く議論してもらえれば。

【麦野副委員長】

○富山県の人は、「自分たちはたいしたことない」と言いつつ、片方で「富山は本当に魅力がある」とか言ったりもしている。立山黒部はあるけれど、本当に富山に魅力があるのか良く分かっていない部分もあって、客観的に自分たちを見れていない部分もあるので、地元出身ではない委員の皆さんの意見も聞いてみたい。

○海外の方イコールお金持ちだと錯覚している。観光は外部環境に左右される業界であり、難しいなと思う。

○富山の大きな課題は人口減少。特に若い女性の減少が著しい。それは、ものづくり県を強調しすぎて、観光のような業界の魅力をＰＲしていないからなのか。若い人、活力のある人がまちづくりを担っていくように、狙いをそちらにもっていくべきである。

○観光については、自然、歴史、文化、食といった、最低限のものはここ北陸にはあると思う。「ウリ」「ヤド」「ヒト」「コネ」という話があったが、一番足りないのは「ヒト」。観光業を支える人がいないと続かない。ブランディングの話で、すしといえば富山という話もあるが、富山駅周辺に鮨屋がないなと思うが、職人の育成、人づくりができていないからだと思う。

○行政の責任は分からないが、民間では事業の継続が重要なポイントである。補助金についても 2,500 万円もらっても仕方ない。ラグジュアリーホテルつくって何十億かかったとして、2,500 万円もらって県にいろいろ口出しされてもどうしようもない。製造業の企業誘致する時に 10 億円を一気に出したりしているケースもあり、波及効果を考えると、ホテル誘致にも補助金の額を検討すべきである。

【清水委員】

○人材については、岸田内閣でも女性役員２割を目指すと言っているが、例えば社外取締役に１人や２人いたところではあまり機能しない。２割を超えないとマイノリティの声は届かない。中にいて、意見を言えるくらいにならないと。実際に女性役員が２割を超えている企業は、そうではない企業と比べて利益が高くなっている。

○富山県の煌めく女性リーダー塾の一番上のマスタコースで講師をしていて、今年で３

年目になるが、去年、２年目の時に思ったのが、平均年齢が下がったということ。若い方が目指してはいけないということではなく、候補者がいなくて若い人が出てきたのかなという面もあるようだ。候補者がいないということは、一番下のところに人が入ってきていないということ。そうすると育成しようと思っても、そもそもの母集団が少ないと育成も難しい。ダイバーシティで、何故、女性活躍かと言うと、女性は最大のマイノリティだから。人口の半分いる、その女性が活躍できないということは、他のマイノリティも活躍できない。人材で、多様な方が働けるようなロールモデルがあると良い。

○今年の正月、箱根で１人 10 万円の宿に宿泊した。家族で計３人、合計 30 万円で、自分としてはだいぶ奮発したなと思っていたが、外国人観光客が宿泊されていて、10 泊される方もいた。ホテルの方に聞くと、10 泊で最後に 300 万円支払って帰られるそうで。宿泊費だけでそれだけなので、ほかにたくさん使っているのだと思う。

○ホテルと言うだけでなく、ビジネスパーソンの視点で言うと、ワーケーションも重要。旅しながら働く、働きながら旅をするということで、そこで滞在しながら２週間なり、長い方では１か月おられるケースもある。例えば帝国ホテルでは１か月 50 万円というプランがあって人気だったが、これを高いと思うか安いと思うか。事務所の１つとして使っていて、非常にいろんな方が使っておられて、あっという間に埋まってしまった状況。そういった国内の方が活用できるような施設があると良いな、というのも１つ考えられるのかと思う。

【能作委員】

○当社の現状をお話させていただくと、コロナが明けて、海外の方が戻ってきてくれるようになって、当社として圧倒的に多いのは台湾。FIT が多いが団体客も徐々に戻ってきてくれている状況。中国からも週に１度くらい来てくれるようになり、問い合わせも増えてきている。

○先日、山川委員といろいろ話をしていて、当社は台湾が圧倒的に多く、私たちは台湾に向けて何をしたら良いかということで、台湾に会社もあるので情報もリサーチしている。山川さんのところは完全に欧米系ということで、長期滞在型の方々であって、そこで宿泊に加えて何か体験できたりしないものかと悩まれている。そこで、「うちではこうしたことができます」ということで相互に補い合えれば良いなと思っている。同じ富山でも来られる属性、ターゲットも違うので、事業者同士で集まって、まずどういう状況なのかを話し合えるような場があれば良いなと思う。そうすれば、そこで見えてくる課題もある。そこではじめて、どういった高付加価値なホテルが必要なのかも見えてくるのではないかと思う。

○今現在、ホテル誘致に対しての私自身の答えは出ていない。ただ１つお伝えしたいなと思うのは、旅にストーリーを持たせることが大事で、そうしたお客さんは確実に増えている。富山ならではのもの、富山だからこそのものが求められていて、当社では

能作に来ていただいてぐい呑みを作ってもらって、若鶴酒造さんでお酒を飲み比べしていただいて、日の出屋製菓さんで白エビせんべいを焼く体験をしていただいて、面にして体験をしてもらう取り組みも重要だと思っている。ホテルのことを考えると同時にコンテンツづくりも大事。また人材も、優秀なガイドが必要で、いくら良いコンテンツがあっても良い人材がいないと結びつかないので、そこはお力添えをいただきたいところ。

【桧垣委員】

○個人的に富山には何度も来ており、こちらの企業様と一緒に仕事をさせていただく機会もあり、魅力はたくさんあると思っている。ラグジュアリーホテルに関しては、私自身がホテルのサービスやお客様に近いところで働いたり、仕組みを作ったり、人材を育成したり、あるいはオーナーともご縁があるので、そうした観点でお話をさせていただくと、一番の課題は人材。日本にたくさんホテルができている中で、業界関係者は嬉しいのかと思う反面、「まだホテルを作ろうとするんですか」という声である。それはやはり人手不足だから。新しいホテルができると、働き手にとってはチャンスであるが、ホテルの業界としてはパイが増えないので、人材が増えないという課題が既に起こっているし、これからも続くだろう。どんなに素晴らしいブランド、ホテルであっても、人に関する視点がしっかりしていないと、ホテルは続けられないと思う。

○どの段階で検討すべきか分からないが、私自身の経験では、開発、オーナー、オペレーターの３つがしっかりしていないとダメで、オペレーターとして人の確保、採用、教育と育成、その後でサービスが大事になってくる。富山の方が働ける環境ももちろん大事だし、同時に他の所から富山に来ていただけるような場所になれば良いなと思う。ここができたところが先を行けるような気がする。

【山田委員】

○「とやま観光塾」で講義を受け持っている関係で、今年３月、ロンドンに行ってきたが、ＵＫの超ホットスポットである長野、岐阜、金沢というルートに挟まれて、富山だけ真っ白な状態で、えらい崖っぷちの状況にあるという地図を JNTO から見せられた。それを「全然ダメ」と思うか、「近くにこれだけ来ているのだから、その一部を富山にご案内することもできるんじゃないか」と思うかだが、私自身は後者だと思う。飛騨古川も、高山に隣接しているからこそ欧米の方に来ていただいているのであって、飛騨高山に来ていただかなければ我々のところにも来てもらえないので。

○高山の状況については、結構ホテルもできていて、金沢にもできていて。宿泊客は高山から金沢に流れているような状況も見て取れる。高山は海外の方からすると日帰り観光地化しているという兆候がある。ただ僕が思うのは、金沢も近い将来いずれそうなる日が来るかもしれない。その時に富山がどうなるか。そことは違う戦略をとるのか。やらなければ損という状況ではないか。

○あともう１つ、ホテル誘致というと、何か外資のホテルを誘致するのかとも思うかもしれないが、サステナブルツーリズムが今人気だが、地元のものを使う発想というか、域内循環という点で富山は結構、金融資産を持っていると思う。そうした地元の金融資産を、投資を充てられたら、内政循環を実現できたら、これまでと異なるアプローチでできると思う。

○最後に人材。浦山学園の国際観光学科で教員をしていて、エッジの効いたことをやっているが、学生を集めるのは苦労する。その点、西村先生の國學院大學では２期生でなんと 360 人も学生がいらっしゃると聞く。ただ、浦山学園が、地元にある学校が、観光で頑張ろうとしているのは良いことで、人材を供給できるものを、地元につくるということは大きなきっかけになる。人の流れ、金の流れも含めて域内循環をつくっていくことができると思う。

【田中アドバイザー】

○私は７月１日に着任したばかりで、直近は東京本店でエネルギーや電力分野に携わっており、観光はそこまで詳しくはないのだが、日本政策投資銀行全体としては観光と、インバウンドのいろいろな動向も調査もしたりしている。富山という土地は私には初めての土地だが、食のレベルが高いと感じた。あとはキャニオンルートとか、観光資源は豊富で、選ばれる機会が十分にあるんじゃないかなと思う。ただ、滞在できる候補地が、富山ではなく金沢や高山にあったりもしている。

○私、今回、赴任するにあたり、ダブルツリーby ヒルトンに宿泊した。ああいった都市型のホテルがあると、海外の FIT のお客様がホテルを探すときに富山が検索でひっかかってくるので、そういう意味で外資系ホテルを誘致する意味はあるのかと。逆に我々も知らない海外の土地に行くときには、マリオットだとかがあると、そこに泊まろうとしたりもするので。その逆の話があるのだと思う。

○国内のラグジュアリーホテルの現状説明も事務局からあったが、都市部にラグジュアリーホテルのブランドが多く立地しているけど、地方にラグジュアリーホテルが誕生するケースもある。企業誘致という観点からすると、地元の企業がちゃんと誘致、開発をするということが大事。香川のケースでは地元の有力企業が誘致を積極的に進めたという経緯もある。いずれにしても、本日お話のあったスモールラグジュアリーのホテルが富山に立地して、地元経済に貢献すると。そんな中で私もお役に立てればと思う。

【西村委員長】

○事務局の説明「資料２」で奈良県の例があったが、私も関わったケースだが、ホテル開業前には周りからの反対、心配の声があったが、結果的にはそれほど問題はなかった。庭園ゾーン、交流ゾーンがあり地元に対しても開けていて、庭園ゾーンについてもホテル開業後の方が整備も進んで綺麗になったりもした。いろいろなところがある

種ハッピーで、経済的にも循環が生まれているということで、上手くいっているのではないかなと思う。

○既にある資産を磨くということはあっても良いのかなと思う。完全な外資が来るのだけではなく。例えば北陸には立派な古民家が多い。砺波平野の散居村は、こんな見事な散居村は日本のどこを見てもない。奈良も官舎跡地を開発した事例であって、そういったものの富山版ができれば。

○あと、何故、高付加価値化かと言うと、湯布院の例で関係者の話を聞くと、いくつか高級旅館があるがそこは価格を落とさない。それは、山が高くないと裾野が広がらないから。地域の循環を考えると、山を高くして、裾野を広げていかないと。そこを意識してやっているということであった。

【山田委員】

○ホテル誘致については、今、「誘致したい」と考える地域だらけだと思う。そういう中で富山のやり方を考えたとき、他の地域と同じようにやるのも一案だし、一方で、先週、岩瀬で食事する機会があったが、岩瀬は富山の中でも独特の取り組みをされている地域だと思う。お店も昼間に行くとよく分からないのだが、ただ、実際に入ってみると素晴らしい空間が広がっていて。そこは、「閉じる方向」というか、「来て欲しい人にだけ来ていただく」という路線。フランスもそういう方向性を打ち出していて、すごいチャレンジだと思うけど。岩瀬には昼間はいろいろな客が訪れるが、一方で高い付加価値を求める人が行くことができる場所もあり、一部の限られた方が来られる街になっている。例えば高山で全てのホテルを埋めるのと、一部の部屋を埋めるのではアプローチが異なる。増やし方のアプローチとして、チェーン化すると検索されやすくなるという面はあるが、それとは別に「知る人ぞ知る」という路線を目指すアプローチもある。高山はホテルが増えすぎて、僕らの、高付加価値旅行者を扱うエージェントと話をすると、みな口を揃えて、「10 年前の高山の方が良かった」と言う。

【能作委員】

○その話は非常に同感。岩瀬もそうで、井波もそうだが、魅力を多大に発信するというより、「知る人ぞ知る」ということは大事。当社は割と大衆的な方だと思うが、高岡銅器の中でも、人数はそこまで誘客できないかも知れないけど、付加価値の高いものを生み出しているところもある。

○ラグジュアリーホテルと聞いて、初めは定義がピンと来ていなかったが、今の話を聞いていて、箱形の大きなホテルが富山に向いているかと考えるとそれは違うという気がして。富山の自然や文化に即した価値、富山ならではの価値を提供していくと、凄く良いのではないかという気がしている。

【麦野副委員長】

○平均値を上げるのと、特異性を持たせるのは異なる。例えば「富山の食の魅力が高い」という話があったが、レベルというのは平均値の話で、富山の回転寿司が東京の寿司屋と同じレベルだという話である。しかし海外の人は富山のレベルを期待しているのではなく、とんでもないことを期待しているのだと思う。おそらくラグジュアリーというのも、レベルのところではなくて、特別な何かを経験することであり、富山ならではのもの、ストーリーを経験することがおそらく面白いんだろうと思う。しかし、特別なこともたくさんあると特別ではなくなり、チェーン店化すると付加価値が下がる。一方で店舗が少ないということは、地元への影響も限られてはしまうので、そこは難しいところである。レベル、平均値を上げるのか、特別なことを目指すのか、ハッキリさせておいた方が良いと思う。

○山田委員のお話で、富山の大学や専門学校で、観光に携わる人が少ないという点だが、ＰＲが下手なのか、もっとたくさん来てほしいと言えれば良いのに。やはり人づくりが重要。